市報 いしおか

3月号
第59号
毎月1回
30日発行

発行所 石岡市役所
石岡市大字石岡408番地
電話（代表）2135番

人口と世帯（2月28日現在）

世帯数		7,260世帯
人口	男	17,631人
	女	19,029人
	計	36,660人

市民生活

家の中での生活が多かった冬は、結核の感染しやすい時期でしたが、春先も危険な時期の一つです。早期発見が最も大切です。健康診断はぜひとも。

これからは朝に晩に日中の寒暖の差が大きくなります。出がけの薄着は禁物です。団布が人体の湿気を吸う時節でもありますので布団の日乾は励行して下さい。

31議案を提出
第一回定例市議会開幕

本年第一回定例市議会は、三月七日午前十時開会、冒頭、議長問題で揉めたが、同一時本題に入り、一億九千百四十万円にのぼる一般会計予算、公営住宅建設、統合小学校、新市建設三事業の起債、国保病院設置など三十一議案を提案したのち、川並市長から別掲のような明年度予算編成方針の説明があり、会期七日間で全議案を審議可決した。

市民健康の増進に 市営国保病院を設置

市は、国民健康保険事業と医療機関の一元化を考究中であったが、今回の市議会に市営国保病院設置条例を提案、文教厚生委員会で検討のうえ本会議で議決承認された。

市営国保病院の設置構想は、水戸市黒羽根町茨城県医療農業協同組合連合会と契約を結び、その傘下にある石岡協同病院（市内金丸町）を買収しようとするもので、受渡の時期は本年七月とされている。

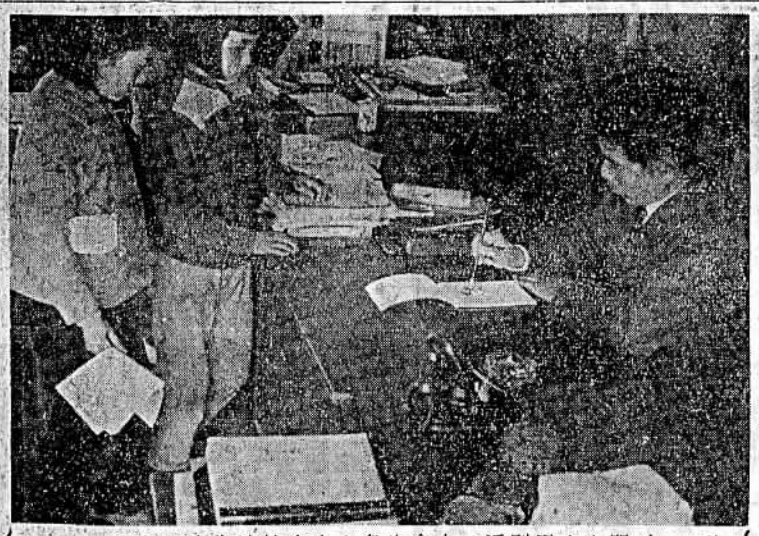
市直営病院設置の理由として次のような点があげられる。

▽単なる施療機関としての目的ばかりでなく住民の健康増進について積極的な活動がなし得る。（定期健康診断、糞尿検査による寄生虫の驅除等）

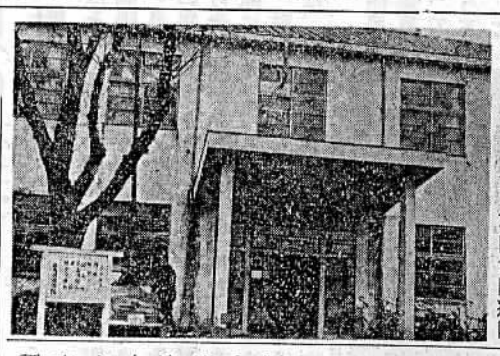
▽充実強化によって相当額の診療費の市外流出防止。

▽企業的な立場から直接住民へ健康についての助言、指導ができる。

起債議会で承認　市は公営住宅建設事業＝明年度分二百万円（33年度分は五十万円減）。統合小学校建設事業＝七百五十万円。新市建設有線放送施設事業＝百五十万円。中小企業勤労福祉施設資金＝百万円をそれぞれの金額以内で起債の承認を第一回定例市議会で決定した。



サイン帖　悲喜こもごも六ケ年間、山よりも高く、海よりも深い恩師とのお別れの日も近ずいた。ここ、府中小学校では今年の卒業生一六名が名残りを惜んで〝別れまじ〟と先生にザインを帖をもつて波状攻撃。先生たちの喜しい多忙は、ここからも湧きでてくる。（府中小学校職員室で）



買収しようとする石岡協同病院

みんな投票運動に拍車

市公明選挙推進協議会設立総会は、二十三日市会議室で開催、委員の互選により役員を次のとおり選出した。

▼会長＝深谷重雄（市公民館長）▼副会長＝岡野瑛（市選挙管理委員）

同会は続いて会則を承認し、事業の一環である「みんな投票運動」の計画を審議、投票成績の向上を図ることになった。

財政の建全性を維持
川並市長定例議会で説明

川並市長は、去る七日の市議会第一回定例会で、本年度予算編成方針の要旨を次のように説明した。

明年度予算については、国の細目方針が決定を見ていないので、現行制度による税収入を基準として予算編成を行ったが、32年の金融引締め政策により、一般景気は後退し、しかも、予測される国税、地方税の減税の影響などもありますので、税収入の自然増加は期待困難といわなければなりません。

のみならず、給与費の自然累増、国策による義務的経費の増大などの要因によって、一般経費の縮減は余儀ないものと考えられます。

このような現況のもとでの予算編成でありますので、努めて、消費的経費の節約を行ない、投資的経費に充て財源の重点配分を行ない、收支均衡財政の健全性を維持することに努めました。

一方、昨年以来行政水準の向上に目標をおきました結果、32年度の決算では、投資的経費の水準に伸びをみせてはおりますが、長期にわたる財政内容の沈滞は、急速に正常化することは容易の業でない状況のもとにあります。

○才入について

納税成績の向上と家屋の新増築等により33年度の当初予算に比較し、一般税で約三百十万円、都市計画税で約三十六万円の増加を見込みました。

前年度の普通交付税の増額決定額と特別交付税の推定額を併せて三千四百八十万円、国庫支出金及び県支出金は、補助事業との関連において、確実な見込のもの三千五百六十五万円を見込んで計上しました。

繰越金は、前年度の実績と33年度決算見込額等により推定し、可能な範囲で四百八十万円を見込み財源の一部としました。

○才出について

土木費は、市営住宅三十戸の建設計画とともに、都市計画路線、駅前一貝地線の完成を予定、失業対策事業等を併せ二千五百万円を計上しました。

教育費は統合小学校の建築千八百万円が主で、保健衛生費では、し尿処理施設の設計々画に基き、敷地買收費五十万円を計上、今後の分析研究による諸調査とまって年次計画のもとに実施を図る考えです。

国民健康保険の全域実施にともない市営の医療施設を設け、保険と医療の一体性を考えて買收費を計上、議会の承認のうえ一切計画を進行させる考えです。

諸出資金の八百七十万円の増加は、新市建設計画にともなう関川、高浜地区の有線放送設備費で、地域社会の発展と向上の基礎を固くするためのものです。

このような諸策を実施しますには、公務の運営の適切が必要と考えまして、内部組織の改革、機構の簡素化、事務処理の能率化等について考究を進めつつありますが、市民皆さまのご協力とご援助をお願します。

予算にもられた新規事業

34年度当初予算に計上した新規事業の主なものは次のとおり

▽市営住宅三十戸建設（七百五万円）＝第一種十戸は二分一、第二種二十戸は三分の二の国庫補助。

▽統合小学校新築（一千七百万円）　統合小学校建設費国庫補助は二分の一。

▽有線放送施設（八百四十万円）＝新市建設事業として国庫助成費三分の一。

▽市営国保病院設置＝既設病院の買收で補助の対象とならない。

この外に霊柩車の購入、し尿処理施設敷地買收費、事務能率化による機械購入費など九百万円がある。

一般会計 才入才出当初予算

引続く黒字　九百十二万八千円

九百十二万円の黒字を算出した昭和32年度才入才出決算は、市監査委員須田保次、大山久ェ門両氏による審査により正当と認められ、決算審査意見書が今市議会に提出承認された。

才入

科目	昭和33年度予算額	比率	昭和34年度予算額	比率
	千円	%	千円	%
市税	80,186	55.0	83,640	43.7
地方交付税	25,400	17.4	34,800	18.2
公営企業及財産収入	1,273	0.9	2,145	1.1
分担金及負担金	945	0.6	4,286	2.2
使用料及手数料	4,010	2.8	4,041	2.1
国庫支出金	24,601	17.0	35,658	18.6
県支出金	1,461	1.0	6,309	3.3
寄附金	1,619	1.1	1,395	0.7
繰入金	1,500	1.0	-	-
繰越金	2,500	1.7	4,800	2.5
雑収入	779	0.5	2.402	1.3
市債	1,500	1.0	12,000	6.3
才入合計	145,774	100	191,476	100

才出

科目	昭和33年度予算額	比率	昭和34年度予算額	比率
	千円	%	千円	%
議会費	4,267	2.9	4,278	2.2
役所費	36,682	25.2	38,414	20.0
消防費	9,584	6.6	8,306	4.3
土木費	18,053	12.4	20,899	11.0
教育費	22,960	15.8	44,238	23.1
社会及労働施設費	24,632	16.9	25,934	13.5
保健衛生費	6,747	4.6	8,932	4.7
産業経済費	7,694	5.3	9,575	5.0
財産費	1,074	0.7	4,232	2.2
統計調査費	453	0.3	456	0.3
選挙費	707	0.5	1,195	0.6
公債費	3,551	2.4	6,006	3.1
諸支出金	8,584	5.9	18,311	9,6
予備費	785	0.5	700	0.4
才出合計	145,774	100	191,476	100

投票用紙の色別決まる

四月二十三日と三十日二回にわたって行われる四月選挙の投票用紙の色別が決定した。

▽茨城県知事及び会議員の同時選挙（十三日執行）に使用される投票用紙は、こ

挙管理委員会で色別次のとおり告示され

知事　黒色字印刷のもの

県議　赤色字印刷のもの

▽石岡市長選挙及び石岡市議会議員の同時選挙（四月三十日執行）に使用される投票用紙は、市選管委員会で決定されるもので次のようになる。

市長　青色字印刷のもの

市議　茶色字印刷のもの

なお、四月二十三日執行の知事、県議の同時選挙の投票の順序は、投票用紙を同時に交付する場合を除き、県議会議員選挙の投票を先にし知事選挙の投票を後にすることになった。

投票所と有権者数

投票所	投票区	有権者
市公民館	第一投票区（北）	三〇〇人
	第一投票区（南）	三〇四
府中中学校講堂	第二投票区	三〇六
貝地共同集荷所	第三投票区	一三六
石岡商工会議所	第四投票区	三三三
染谷分校	第五投票区	九七七
根当分校	第六投票区	九七七
泉ケ丘保育園	第七投票区	一三三
杉並分校	第八投票区	六四四
緑仲町会館	第九投票区	二八九
中津川集会所	第十投票区	三四
東大橋小学校	第十一投票区	五八三
小井戸集会所	第十三投票区	一九七
三村小学校講堂	第十三投票区	一〇四六
山口三繕氏宅	第十四投票区	三六九
水内公民館	第十五投票区	三六一
関川小学校	第十六投票区	三四
仲丸集会所	第十七投票区	一八三
関川中学校	第十八投票区	
八木自治会場	第十九投票区	

お知らせ

良い人を選び苦情のない政治

入選　青木町　元木朗（若松町青年会募集　市選管委審査）

四月の幕あけ

四月一日「緑の週間」が幕をあける。

都会の人々は苗木の即売会や貼りだされたポスターなどにより〝ほのかな郷愁〟がかきたてられるだろう。

しかし、山林資源の重要さや洪水期に知るハゲ山の恐ろしさを知るのは山を護るために生きぬいた人でなければ解らない。

植林からウツソウたる山林に仕上げるまでの何十年間、山を愛する人の情熱こそ緑の週間にふさわしい。

緑の週間は、戦中、戦後、乱伐につぐ乱伐で、いちじるしく荒れ果てた森林が、再建日本の大きな障碍になったことに目覚め、緑化達成のため一大国民運動が起されたのがそもそもの出発である。

この週間は、苗木を植える好期で、植えつけ方の注意を次にのべよう。

植えつけは、なるべく曇りがちの風のない日に正三角形か正方形植えを行なう。

まず植えつけ場所附近の落葉や草を除き、植穴を苗木の根よりも大きめに堀り、根を自然にひろげ、よくふみつける根ぎわには、落葉や枯草などをよせ土の乾燥を防ぐこと。

国保税は一割程度の増額

だが、他市に比べまだまだ安価

国民健康保険被保険者の利用度は年々向上し、昭和30年の療養給付件数二三、八七二件に比し、32年は四六、四七六件(見込)、増加率は五〇%と目覚しい発達をとげつつあるので、これが收支の均衡を保つため、市議会の議決により保険税率を次のとおり改正、34年度から適用することになった。これにより被保険者一世帯當りの国保税は平均二割程度引上げられるが県内他市町村に比し、なお低額である。

保険税率は

所得割＝百分の四十五を百分の六〇。

資産割＝百分の十一を百分の一六。

被保険者均等割＝一人につき二〇〇円を二四〇円。

世帯別平等割＝一世帯につき六〇〇円を七二〇円。

任意給付費は

助産費＝五百円を七百円。

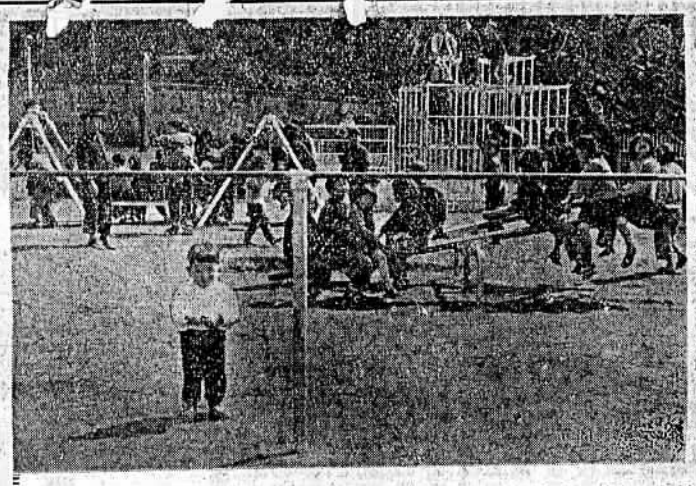
葬祭費＝七百円を千円。

育児手當金＝現行とおり一ケ月百円で六ケ月間

被保険者一人当療養給付の推移	
31年	866円
32年	1,167円
33年	1,650円(見込)

保険税1世帯当他市町との比較 (34年度予定額)	
古河	3,560円
下館	3,200円
竜ケ崎	3,240円
千代田	3,152円
水戸	3,150円
石岡	3,070円
高萩	3,032円

上池公園に春



52万円の施設費（3分の2国、県の補助）で、市内土橋の上池公園にこのほど児童遊園地施設ができた。

ジャングルジム、滑り台、ブランコ、シーソーなど八種類でまた、遊園地内に柵を設け、外燈も点燈される。

全國青年問題研究集会に出席

日本青年会館で、二月二十七日から四日間行われた全国青年問題研究集会に出席した。

「経験の浅い私には、どんな内容のものかも判らず参加したが、講習会のように上から流れてきた問題の勉強でなく、各人の環境における種々の問題をレポートして、同じ悩みを持つ友達と共にはだかになって話し合い解決することのできる処だと知りました」といっている。

小松崎てい子さん

小松崎さんの出席した分科会は〝女子青年と生産活動〟というのが主題で、衣、食住、結婚について家族全体が話し合い、精神的改善を先に農家の月給制や農業技術と共に販売技術も養うこと、仲間作りにより一人の百歩より百人の一歩などについて話し合ったという。

（関川青年会副会長）

活発な意見の交換

市内駐在員会議

『町内会、部落会、またはその連合会に関する行爲の制限に関する勅令』という長い名前のポツタム勅令が二十二年五月に出て（二十七年十月失効）戦時中の住民下部組織はあいなくもその姿を消し、駐在員制度が採用されたのは、昭和二十四年であった。

それ以来駐在員は、区域住民から推挙されて、市の通達事項の周知などの仕事を行ってきたが、最近では、むしろ下部組織の町内自治機関としての意欲に燃え、生活改善や町内をよくする運動、蚊とはえのいない生活実践運動などをモラルとして活發な運動の展開が見られるようになってきた。市は、このような実情をキャッチして市政に反映しようと去る三日、市公民館で市内駐在員会議を開催、川並市長をはじめ斉藤助役各課長等が同席で、話し合いが進められた。話題となった事項の要約は次のとおり。

市公民館に集った駐在員さん

○し尿汲取券を購入しての汚物処理は面倒なので現金取引はできないか。

回答　市条例で規定されていますので、特別契約（大口）以外は市発行の汲取券で行なって下さい。

○駐在員を利用する營利業者の撃退の申し合せをしたい。

回答　対個人間の取引は各人の良識に訴えても駐在員の資格として利用されないようご留意いただきたい。

○市役所の玄関先でトラックなどの水洗掃除を行っていることがあるが、出入者に迷惑するので、どのようにかしてもらいたい。

回答　場所が狭隘なのでご迷惑しますが、早急に適当な場所で行うようにします。

○納税完納の地域での、マイクによる未納督励は遠慮してもらいたい。

回答　未納督励は納期前、早やめに行っていますが、納税の状況も調べまして、できるだけ障げるよう処置します。

○回覧周知が不徹底で期限遅れの通知が見受けられる

回答　各家庭で回覧の文書の到着日と終了日を記入してはどうか。駐在員側から近くで日当りの良い所。

3、床土は酸度が六度以下が良い（五・〇～五・五度位が適当）

4、土壌は軽鬆土で、腐植に富む肥えた水もちのよい土質が良い。

○苗代面積

反当五坪（一六・五平方m）位が適当。

坪当（三・三平方m）八〇株植、一株当二本植で反当四八、〇〇〇本必要。一升（一・八七瓩）籾の粒数三六〇〇〇粒とし成苗率八〇%とするとし一升七合（二・八八瓩）で坪當三合～四合播とする。

○苗床肥料

坪当　腐熟堆肥五貫、硫安一〇〇匁、過石一二〇匁、塩加四〇匁を床面へ撒布、表土五寸位の深さに反転耕起する。

○播　床

反当（一〇アール）四尺五寸巾で長さ四五尺（一三・六m）の短冊を作る。通路は二尺（六〇cm）とする。

○灌　水

短冊形に播床が出来たら床打ちを行い充分灌水する。灌水する場合はムシロを敷きその上から行う。坪当（三・三）五斗（一〇〇立）－六斗（一二〇立）の水をかけ充分湿らせる。

○播種量及び播種

籾が鳩胸程度になったとき坪当（三・三）三合（〇・六立）－四合（〇・八立）反当（一〇アール）所要量一・五合（三立）－二升（四立）位まく。

種子消毒代と同じ方法。

○覆　土

五分位とし覆土（三・三平方米）五升（立）位灌水、その上に古い油紙か新聞紙をしく。

○ビニール被覆

中央九寸位（三〇cm）両端六寸（二〇cm）のカマボコ型に被覆する。

三村で畑苗代の研究

稲作の育苗法が年々改善され早期育苗法としての畑苗代の普及がクローズアップされてきた。

市内三村水内では二十七日、前島雅光さん宅に七十人のお百姓さんたちが集り、石岡地区農業改良普及所岩田技官の指導で「畑苗代の作り方」講習会が開かれた。

○苗代畑の選定

1、多量の水を必要とするため水利に便な所。

2、管理に便なるため住宅の

（前島雅光さん宅での畑苗代の研究会）

選ぶべからず十二章

一、選挙に金をかける人
二、どこへも名前をだしたがる人
三、やたらに金品を寄附する人
四、べコべコお辞儀をし歩く人
五、親分の名でいばる人
六、恩や情でからむ人
七、後援会を作りたがる人
八、他人の意見でごまかす人
九、会議より二次会の好きな人
十、家庭の平和の保てぬ人
十一、汚職に関係した人
十二、暴力を用いる人

（県婦人連合会の作ったもの）

おめでたおくやみ

二月

出生　四五人
死亡　二五人

▼出生

若松	国分	若松菊地正志
松鈴	泉町	松鈴木
小野瀬	大小路	小野瀬
嶋田	〃	嶋田幸
神岡	〃	神岡利幸
背黒渡	〃	背黒渡康利延
河原	〃	河原鉄夫
越崎	〃	越崎和夫功
山治	〃	山治司
加藤	〃	加藤実
前野	〃	前野行
青木	〃	青木二
道田	〃	道田夫
邦夫	〃	邦夫
利一	〃	利一郎
一行	〃	一行雄
文二	〃	文二郎
次郎	〃	次郎
幸次郎	〃	幸次郎
正一郎	〃	正一郎
一文	〃	一文
次郎	〃	次郎
小島	〃	小島
島田	〃	島田
矢口	〃	矢口
石塚	〃	石塚
大追	〃	大追
色杉	〃	色杉
幕田	〃	幕田
石林	〃	石林
金英	〃	金英
丸	〃	丸
山王台	〃	山王台
貝田	〃	貝田
富木	〃	富木
守田	〃	守田
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
兵庫	〃	兵庫
大谷	〃	大谷
出山	〃	出山
正上内	〃	正上内

鈴木	中田	中田
新田	新山	新山
友部	友部	友部
池田	池田	池田
木下	木下	木下
川瀬	川瀬	川瀬
幸	幸	幸
太茂	太茂	太茂
宗末	宗末	宗末
博	博	博
周	周	周
一文	一文	一文
次幸	次幸	次幸
郎雄	郎雄	郎雄
一郎	一郎	一郎
忠一	忠一	忠一
裕浅	裕浅	裕浅
一郎	一郎	一郎
金宗	金宗	金宗
之助	之助	之助
光裕	光裕	光裕
男一	男一	男一
長二	長二	長二
女男	女男	女男
長三	長三	長三
女男	女男	女男
智二	智二	智二
みつ江	みつ江	みつ江
誠也	誠也	誠也
あや子	あや子	あや子
良貞	良貞	良貞
裕治	裕治	裕治
則二	則二	則二
惠子	惠子	惠子
清美	清美	清美
克夫	克夫	克夫
慎一	慎一	慎一
比郎	比郎	比郎
次郎	次郎	次郎
智恵	智恵	智恵
修次	修次	修次
利明	利明	利明
嘉夫	嘉夫	嘉夫
純一	純一	純一
紀江	紀江	紀江
恵子	恵子	恵子
利光	利光	利光
恵子	恵子	恵子
昌美	昌美	昌美
秀明	秀明	秀明
敬子	敬子	敬子
重夫	重夫	重夫
利仁	利仁	利仁
明子	明子	明子
恵子	恵子	恵子

▼死亡

石川	井関	正上内
〃	〃	〃
〃	〃	〃
三村	〃	〃
小井戸	高浜	石ノ木
東	〃	〃
中津	染谷	染谷
高橋	谷向	谷向
染谷	栄松	栄松
大上	甚石	甚石
荒谷	〃	〃
大谷	〃	〃
金小	〃	〃
津丸	〃	〃
大津	〃	〃
国分	〃	〃
青木	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
若松	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
幸町	〃	〃
飯島	鈴木	正上内
丸山	浅田	丸山
高橋	井上	高橋
本谷	高谷	本谷
高橋	山崎	高橋
山崎	小原	山崎
粟野	粟野	粟野
中村	中村	中村
山口	山口	山口
河野	河野	河野
木為	木為	木為
矢泉	矢泉	矢泉
前原	前原	前原
岡崎	岡崎	岡崎
大原	大原	大原
冷根	冷根	冷根
田村	田村	田村
原口	原口	原口
堀野	堀野	堀野
来村	来村	来村
池久	池久	池久
谷水	谷水	谷水
能	能	能
越庄	越庄	越庄
栖次	栖次	栖次
田福	田福	田福
島国	島国	島国
公正	公正	公正
ふ治	ふ治	ふ治
文定	文定	文定
公光	公光	公光
志伝	志伝	志伝
俊か	俊か	俊か
俊う	俊う	俊う
俊き	俊き	俊き
俊か	俊か	俊か
俊ン	俊ン	俊ン
俊子	俊子	俊子
俊つ	俊つ	俊つ
俊め	俊め	俊め
俊助	俊助	俊助
俊吉	俊吉	俊吉
俊郎	俊郎	俊郎
俊も	俊も	俊も
俊一郎	俊一郎	俊一郎
俊松	俊松	俊松
俊雄	俊雄	俊雄
俊夫	俊夫	俊夫
俊子	俊子	俊子

年令	死亡者	死亡者
三五	正雄	正雄
四五	上内	上内
四五	石ノ木	石ノ木
三五	甚沢	甚沢
六五	〃	〃
五五	〃	〃
五五	〃	〃
七五	〃	〃
六五	〃	〃
四六	〃	〃
七六	〃	〃
四七	〃	〃
八五	〃	〃
六七	〃	〃
七〇	〃	〃
六六	〃	〃
五七	〃	〃
七九	〃	〃
二七	〃	〃
九〇	〃	〃
五五	〃	〃
七五	〃	〃
九〇	〃	〃
五五	〃	〃
七五	〃	〃
九〇	〃	〃
五五	〃	〃
七五	〃	〃
九〇	〃	〃
五五	〃	〃
七五	〃	〃
九〇	〃	〃
五五	〃	〃
七五	〃	〃
九〇	〃	〃
五五	〃	〃
七五	〃	〃
九〇	〃	〃
五五	〃	〃
七五	〃	〃
九〇	〃	〃
五五	〃	〃
七五	〃	〃
九〇	〃	〃
五五	〃	〃
七五	〃	〃
九〇	〃	〃
五五	〃	〃
七五	〃	〃
九〇	〃	〃
五五	〃	〃
七五	〃	〃
九〇	〃	〃
五五	〃	〃
七五	〃	〃
九〇	〃	〃
五五	〃	〃
七五	〃	〃
九〇	〃	〃

知事、県議選挙投票日　4月23日
市長、市議選挙投票日　4月30日

みんな投票

茨城縣選挙管理委員会
石岡市選挙管理委員会
石岡市公明選挙推進協議会